

こま遊び

幼稚園では、日本古来のお正月遊びを大事に取り入れています。カルタ、すごろく、凧、こまなど昔から親しまれてきたお正月遊びには、楽しさを感じるとともに子どもの発達や学びを支えています。カルタやすごろくでの遊びは文字や言葉のリズムに気づいたり、数に親しんだりします。凧あげは寒さに負けず、戸外で体を動かして遊ぶきっかけになったり、風の向きや強さなど自然現象と凧や糸との関係を遊びながら感じたりします。

3学期の始業式にお年玉として子どもたちにこまを渡しました。

3歳児はナイロン樹脂製の直径9センチのこまをもらいました。こまの芯棒を両手の手のひらで挟み、擦り合わせて回すものです。はじめは要領がわからず、挟む力が足りずポトンとこまが落ちてしまいます。手のひらをこすり合わせると芯棒に回す力が伝わるということは経験の中からわかっていきます。何度もやって回せるようになります。また、こまに付けた色が回る速度に応じて見え方が変わることに気づきます。「あ、こんな色になった！」「先生、見て！」と回ったことの嬉しさと共にもっとやってみよう、今度は？とまた、挑戦していきます。

4歳児は木のこまをもらいました。芯棒が長く、3歳児と同じように手のひらを使ってまわします。が、こま本体は上下に動き、バランスが変わるこまです。昨年のこまでの遊びを経験していることで、楽しさもわかり、どんどん遊び始めます。そして自分のこまにいろいろな色を付けたり、キラキラ光る紙を貼ったりしてオリジナルのマイこまが回る様子を見て楽しめます。点のように付けた色が回ると線になったり、一か所だけ光っていたのに全体がネオンのように光ったり…。回る速度に応じてその様子に変化するなど回すことだけでなく、回ることでの変化も楽しむようになります。何度も何度も試したり、挑戦したりし、その中で集中したり、探究したりする学びが見られます。

5歳児は紐で回す木芯のこまをもらいました。紐をこまに巻くことはとても難しく、微妙に指先に力を入れて渦巻き状にこまの側面に沿わせていきます。途中であきらめず、何度も挑戦し、紐巻き名人になれば今度は投げて回すことに挑戦です。紐だけ持ち、こまを投げることも、そしてこまを水平になるように投げることも大変難しいです。Aちゃんは床に近づいて投げるほうがよく回ると思い、座って投げます。Bちゃんはこまがぶつかっていかないように周りに何も無いところ、誰もいないところに向けて投げています。

手のひらや指に力を入れてこまや紐を扱うことは巧緻性や調整力など体の諸機能の発達につながります。今の社会は自動化や利便性が進み、例えば水道の蛇口もひねる、紐で結ぶなどといった手や指先を使う経験がなくなりつつあります。遊びや生活から巧緻性や調整力など体の諸機能を高め、発達を促していく機会を大事にしていきたいです。

こまに色や紙を付けることで、回る速度の変化や遠心力など、遊びながら体験で学ぶことはたくさんあります。こんなふうになりたいという願いや思いから工夫や試しを考えていきます。子どもたちの探究が深まっていきます。科学や力学など学校教育でその原理を学んでいきますが、幼児期にいろいろな体験をして考えることがその土台となっていくと考えます。

